

Kindai Hospital Today

金沢大学病院ニュース

Vol.14

KANAZAWA UNIVERSITY HOSPITAL

平成 23 年 12 月発行 / Vol.14 金沢大学附属病院 〒920-8641 金沢市宝町 13-1 TEL.076-265-2000

病院長 ご挨拶

病院長 富田 勝郎



今年3月の東日本大震災・巨大津波・原発事故。悲惨な日本の姿と政権の混乱で底知れない不安のなか、金大附属病院の運営も一瞬沈みがちになりました。しかし、7月、なでしこジャパン（サッカー女子W杯世界一）の大活躍に力づけられてか、職員全員のつましくも不屈の“大和なでしこ精神”により見事に好転しました。お互いに信頼し力を出し合えるスタッフによってこの大病院が支えられていることを嬉しく誇りに思い、心から感謝しています。病院運営が前向きに安定してこそ、医療に携わる者は安心して思いやりと誠意をもって「医の心」に従い、最善・最高の医療に専念できるのだと思います。

さて大局的な見地から眺めると、医療は絶え間なくめざましく進歩し続けており、金大附属病院は未来につながる有望な新医療を日夜、追求し続けています。一方、眼前の治療を受けておられる患者さんに近づき耳目をそばだててみると「病気さえ治れば・・・、健康こそが何よりの宝や！」と祈っておられる声なき声が聞えてきます。この一人一人の患者さんの願いに最善最高の医療で応えたい、この想いこそが私達、医療に携わっている者の声なき声でもあります。

そのような姿勢で今年も多くの新人を迎え、設備を大幅に投資して医療態勢の強化を計りました。また集中治療部 (ICU) をはじめNICU、GCUなどを拡大し、(医)金沢先進医学センターも拡大されています。しかし新病院としてスタートし3年も経過すると、もっと効率的な使い方があるのでは？と思える箇所も出てまいりました。そこで皆様から寄せられていましたご意見をもとに、プロムナード・ホールのテラスを中心に小改装工事を追加することにしました。一方、政府の混迷により臨床研究棟(いわゆる新医局棟)も正面整備も遅れ々々になっています。ならば出来るものからと、立体駐車場を最優先して建てることにしました(以上の概要はこの冊子の6～9ページに提示)。より良き大学病院に向けての努力は今後も続きます。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。



2011 航空写真

また、地域医療の崩壊を防ぐため石川県と協力し、宝ホルの後方(屋上)に金沢大学附属病院・医療人・生涯学習センター(CPD Center)を建ちあげることが確定しました。ここが北陸の医療人の生涯教育・情報、地域医療の支援強化の発信基地となっていくよう育てていきたいと思っています。

ともあれ金大附属病院は日常的な「標準的治療」を実践していくのみならず、専門医チームによる「高度先進医療」を遂行したり、多科の専門医の知恵を結集して「最後の砦・医療」にも挑戦していかねばなりません。いずれにおいても医療の原点である「医の心、慈しみの看護」を胸に、患者さんに温かい手を差しのべながらベストを尽くしていきましょう。

DMAT活動と医療支援活動

3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖にて日本観測史上最大といわれるM（マグニチュード）9.0の地震が発生しました。波高10mにもなる津波が発生し、田畑や家屋、そして人々を次々と呑みこみ、壊滅的な被害と多くの尊い命を奪っていきました。全国から支援の輪が広がるなか、当院からも支援活動としてDMATをはじめ、いくつものチームを派遣してきました。ここではチームの活動や現地の様子などを報告いたします。



金沢大学のDMATチームにDMAT待機指令が入ったのは、地震発生日3月11日の午後15時15分、発生から30分ほど経過してからであった。出動要請を受け、18時過ぎに、私を含めた5名のチームが北陸自動車道から磐越自動車道を経て東北に向かった。当初、福島県立医大を参集拠点に予定していたが、参集状況から、宮城県の仙台医療センターを参集・活動拠点とすることになった。途中、給油の問題、高速道路の傷みから、仙台医療センターに到着できたのは、翌日の午前5時であった。

目的の仙台医療センターは、外観は十分保たれていたが、長引く停電による自家発電による電力供給、水道の停止により、その診療機能は大きく制限されていた。高度医療機関が頼りとするCTやMRIは使えず、医薬品の使用も制限されていた。建物や瓦礫の下敷きになった傷病者を想定していたが、地震後早期に搬送されたのは、低体温症と一酸化炭素中毒であった。沿岸部の津波の被害の大きかった地域に医療チームが入れるようになったのは、地震の2日後であった。医療ニーズの把握が支援チームもできず、また、被災地の病院からの具体的援助要請も届かず、当初予定されていた、自衛隊機を用いた広域搬送も空振り状態であった。

絶大な医療ニーズがあるはずなのに、それに十分応えられないジレンマは、超急性期に現地入りした医療チームに少なからず絶望感を与えたと思う。3月15日ごろから、被災地域の全体像が明らかになり、3月15日に金沢大学から出発したDMAT第2陣チームは、岩手県消防学校からの広域搬送、県立釜石病院への医療支援など、活発なDMAT活動を行った。DMATの活動は前例のない1週間を超えるものになったが、病院医療支援や避難所での医療活動は、徐々に全国の都道府県からの医療支援チームに引き継がれていった。

3月19日から、石川県の要請を受けた金沢大学災害医療支援チームの一員として、石巻に向かった。途中、宮城県庁、石巻市役所に立ち寄ったが、行政機能は疲弊状態にあり、災害医療対策本部機能は麻痺していた。医療支援の指揮は、被災を免れた石巻日赤の災害コーディネーターが行っていた。金沢大学病院チームは最終的に他の医療チームと協力しながら雄勝地区での医療支援活動を行った。雄勝地区には、旧町立病院があったが、津波により破壊され、患者と医療従事者のほとんどの命が奪われた地域であった。避難所を巡回したが、高血圧、不眠、心的ストレスで不調を訴える避難者が多く、持病を有する避難者の常用薬も足りない状態であった。この地区を担当する他の医療チームと現地で日2回ミーティングを行う調整し、不足する医薬品の譲り合い、情報共有を行った。このような、背景を超えた医療チームの連携は高く現地住民から評価され、歓迎された。その結果、金沢大学チームを含めた石川県の医療チームは2ヶ月以上、雄勝地区を担当するリーダーチームとして活動することになる。金沢大学病院のチームは立派な働きをしたと考える。



災害派遣を経験して 思うこと

私は震災から1ヶ月経った4/21～4/24に宮城県石巻市雄勝町へ行ってきました。

現地ではがれきや車、電柱などは流されたままの状態で、まだ電気・水道・電話も復旧しておらず、自衛隊や医療者以外の職種の方も懸命に支援活動を行っていました。



NICU 八田 理恵

私達医療班は4人構成で、チームメンバーはほぼ初対面の医師1名、薬剤師1名、看護師2名でした。病院業務とは違いマニュアルがない中で、移動や時間管理など診療以外のこともすべて4人の判断で行う必要があり、慣れていないことで戸惑うことも多くありました。しかし、災害対策本部で前任の石川県チームからの申し継ぎがあったため、スムーズに活動開始することができ、連携の重要性を実感しました。

医療活動の手順としては、現地の保健師からその日に訪問すべき個人宅や避難所の地図、過去の診察記録ファイル、医療ニーズ者の情報を受け取り、これらの情報をもとに診察・処方・相談し次へつなげるという形でした。限られた時間、限られた資源で診療するためにはチームワークが大切で、まず地図を見て指定場所へ向かうこと、そして医師（診察・カルテ記載）、薬剤師（医師と薬効の相談・処方・患者さんへ内服方法や薬効の説明）、看護師①（バイタルサイン、血糖測定、創傷処置）、看護師②（診察補助、情報整理、相談）と役割分担することでスムーズに活動することができたと思います。医療ニーズとしては、高血圧・糖尿病・気管支炎など慢性疾患の継続支援やがれきや転倒による創傷処置が多くありました。被災者の中には「自分の物は全て流されてしまった。」と語る方もおられ、必要な方へは新しくお薬手帳の作成支援を行ない、手渡したときの安堵したような表情が忘れられません。

実質2日間の活動でしたが、災害時の看護・医療者の役割について深く考えさせられた貴重な時間でした。災害は起きてほしくありませんが、もし起きたときには主体的に動けるように日頃から準備しておくことが大切だと思います。



災害派遣医療チームとは？

Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって、DMAT（ディーマット）と呼んでいます。

医師、看護師、業務調整員（薬剤師、放射線技師など）で構成されており、大規模災害時などに現場に急行するチームです。当院からも地震発生日の夜に第一陣を派遣し、活動を行って来ました。

福島原発周辺の放射線測定と医療支援を行った医師としての経験

金沢大学 核医学診療科 松尾 信郎



震災直後に原発事故があり周辺地域が放射線汚染された。3月14日に文部科学省から放射線測定者派遣の依頼があり、16日から4日間福島県で医療支援と放射線測定を行った。

現地では福島県緊急医療調整本部が組織されていてDMATと連携して対策がされていた。測定会場は2000人以上の被災者でごったがえし、電球が落ちて床にちらばり、屋根はひびが入っていた。体育館や廊下にシーツをはって寝ている状態だった。放射

線測定を行なうと共に、本部の指示により医療支援を行なうことになった。被災地での病院機能が失われたため、ペースメーカー術後患者、風邪、糖尿病、高脂血症、心臓病、アレルギー性鼻炎、被ばくの不安のある人、不眠、腸炎など様々な患者さんがこられた。震災自体の不満などは一切言われず、本当に困っていることについて訴えられた。急に血圧が上がって脈拍は早い方や心臓病を持つ人は特に危険である。すぐに病院受診の必要がある者については被災地から離れた病院に紹介した(図2)。ほとんどの方が薬を持たずに命からがら逃げて来たとは話されていた。代わりの薬を処方し、話をできるだけ聞き、百数十人を診るのがやっとだった。院外薬局の場所や病院の位置は被災者の中からボランティアとなっていた方と共に説明した。

現地の医療活動は厳しいが継続して支援することが重要だ。金沢大学チームとして医師1名、放射線技師1名、看護師1名、事務1名で活動した。活動後には村長さん、本部スタッフなどから感謝の声を頂いた。

被災直後には医療を絶たれ、被ばくの不安が人々にのしかかり、循環器疾患の発症率が上がる。利用できる医療資源が限られた状態で放射線汚染の不安の中で活動するため核医学知識を備えた医師が救急医療医師やDMAT、精神科医師、循環器内科医師などが横のつながりを持つように災害時には準備しておく必要がある。多くの医療関係者が被災地に赴き医療支援をしたいと感じていたと思う。ただ被災直後には困難を伴うため、自己完結型支援である必要がある。

帰ってきてからは水が飲めること、布団で寝られること食事がとれることなど普段では当たり前にかんじていることが有り難いことであると感じる。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。



東北地方太平洋沖地震における 災害派遣医療チーム(DMAT)としての活動を通して



手術室 多賀真紀子

平成23年3月11日14時46分にマグニチュード9の巨大地震が太平洋沖で発生し、東日本を中心に甚大な被害をもたらしました。当院の災害派遣医療チーム（以下DMAT）5名は発災数時間後に仙台市へ出発し、3月12日、13日に仙台市を中心に活動してきました。今回の私達の役割は、災害拠点病院である仙台医療センターの支援及び地域病院の被災状況・医療ニーズの把握と周辺避難所の情報収集でした。

1日目の活動は、仙台医療センターのスタッフの休息確保目的に診療を交替し、黄色エリア搬入患者さんの診療につくことでした。搬送される患者さんの多くは避難所でのストレスや自宅から薬を持ち出せず内服出来ていないことから症状悪化を来し搬送されているのが特徴でした。私たちは次々搬送される患者さんの診療介助と同時にトリアージタグから情報収集、カルテ記載、家族のケアを主に行いました。

2日目は、情報把握がなされていない地域病院・避難所の情報収集でしたが、どの病院も自家発電でしのご、酸素や薬品、食料の不足、通信手段がないといったライフラインの途絶や燃料不足が深刻であり、スタッフは休息もとれずに活動し、涙を浮かべながら医療物資の支援を訴えていました。

私は今回の活動にあたり、患者さんが避難時に内服薬を持参できず症状が悪化し搬送される現状や医療



者の物資支援に対する悲痛の叫びを目の当たりにし、報道ではあまり目にしない災害の辛さを実感しました。私たちDMATは発災48時間以内の災害急性期に活動する医療チームですが、その時の活動のみではなく、被災患者さんや家族、被災病院の叫びを伝え、ニーズに応じていけるよう支援、次の医療チームに引き継ぐことが重要な役割の一つであることを今回の活動を通して改めて感じました。今回の活動における貴重な体験を無駄にしないよう今後も災害活動に取り組んでいきたいと思っています。

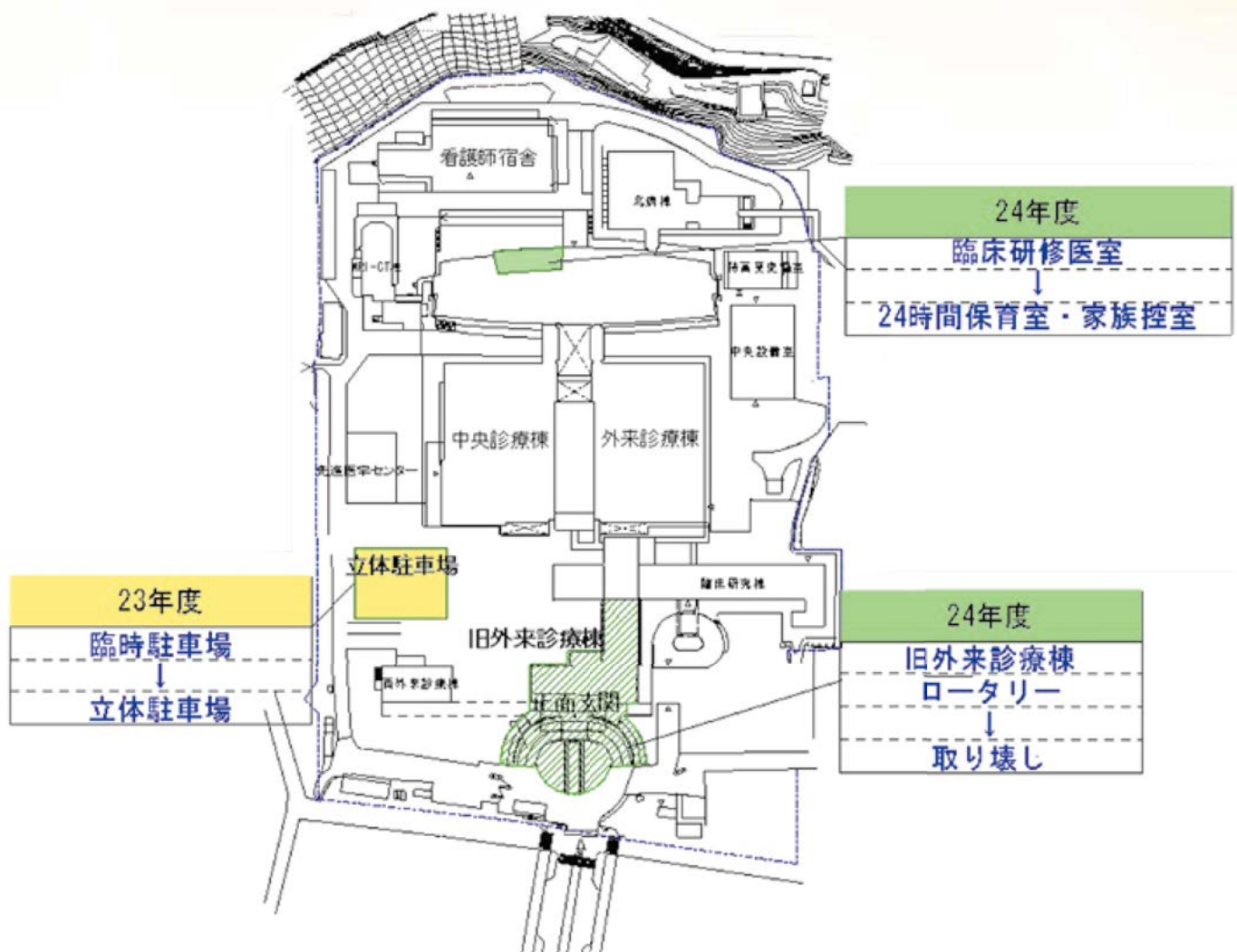
金沢大学（病院）の役割

今回の予測を大きく超えた災害で、適確な情報を得て、広域大災害にどのように対応すべきかが、DMATや医療支援チームの課題になっている。中でも、正確で迅速な情報伝達が、組織や地域を包括してなされるような、ネットワークの構築が望まれている。また、住民が、絶望的な状況から復興に歩み出すには、住民が元気を取り戻す必要がある。医療のみならず、多方面、多分野からのアプローチが必要である。金沢大学は震災を経験した石川県にある。能登半島地震後の復興に関わった経験を有している。学際・学域を超えた「災害復興学」を確立すべきと考える。

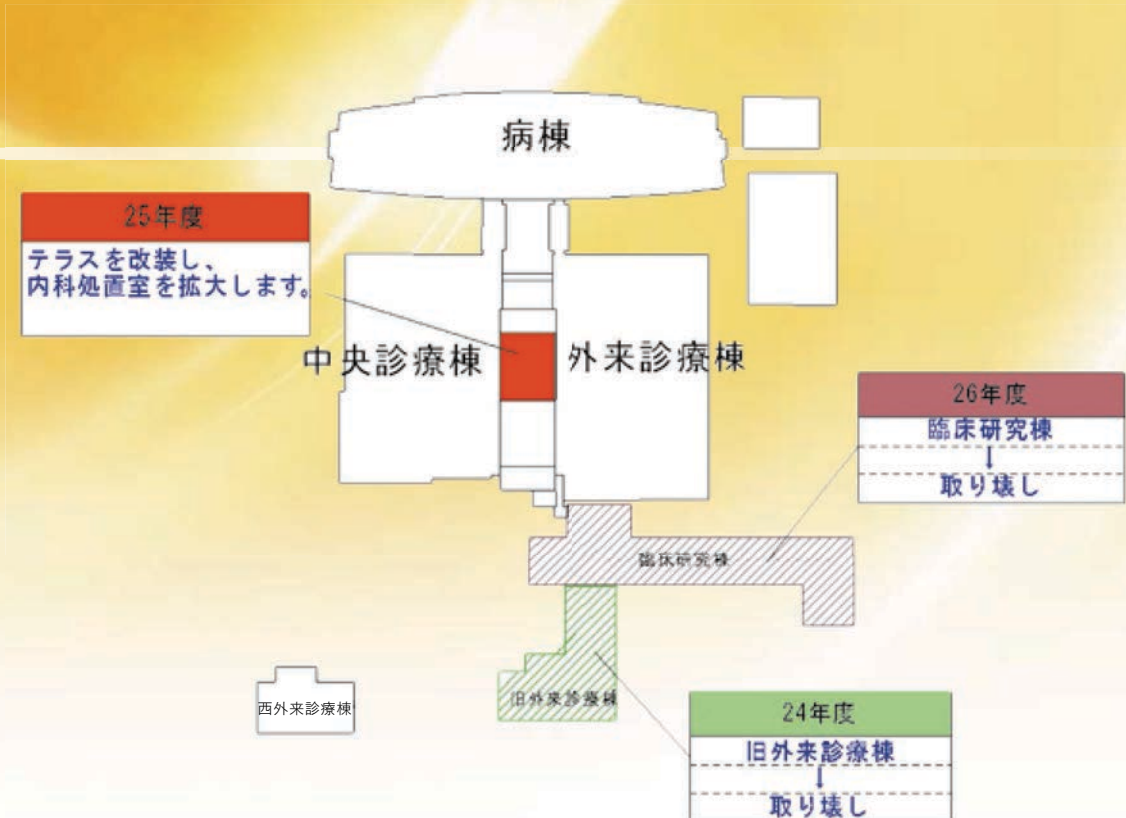
今後の附属病院整備計画について

平成13年の病棟完成から10年をかけて、中央診療棟と外来診療棟が完成し、新体制となって早3年目を迎えました。今年度も人員、設備を増強し、医療設備の強化を図っておりますが、もっと効率のよい使い方があるのではないかとの声も出てきております。

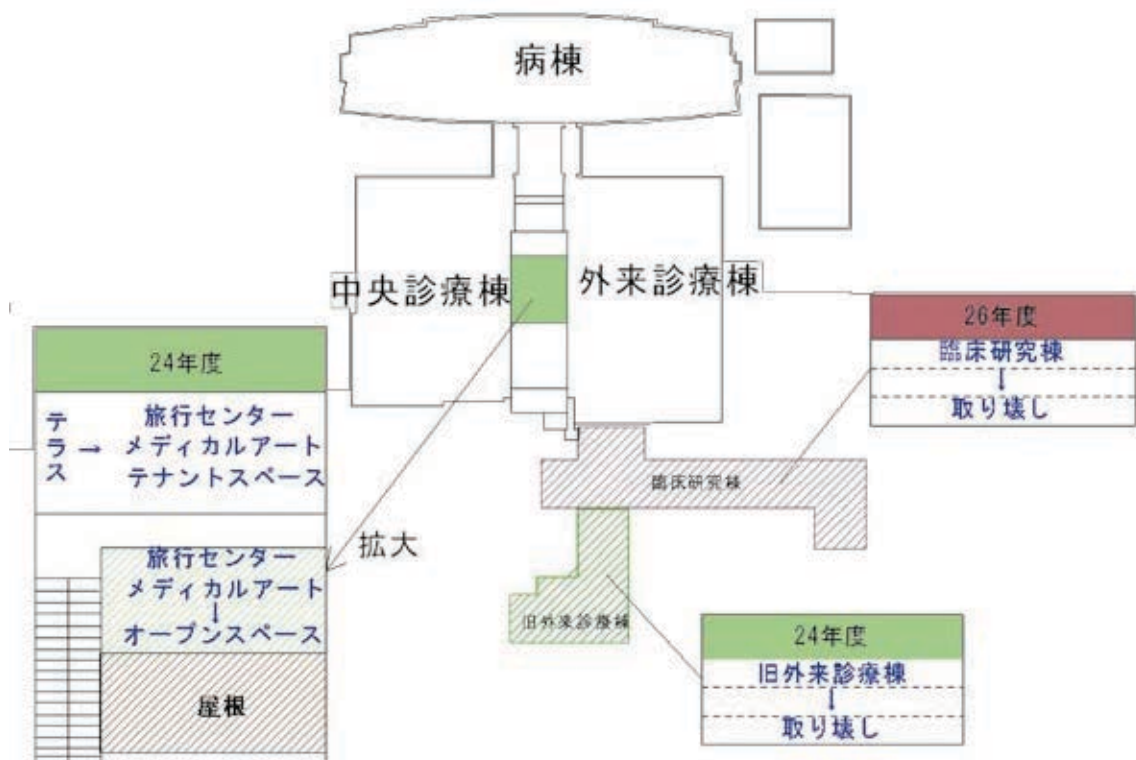
そこで、皆さまから寄せられたご意見をもとに、改装工事をする事となりました。現在計画されている工事予定について、ご案内させていただきます。皆様にはご迷惑とご不便をおかけいたしますが、ご協力の程、よろしくお願いいたします。



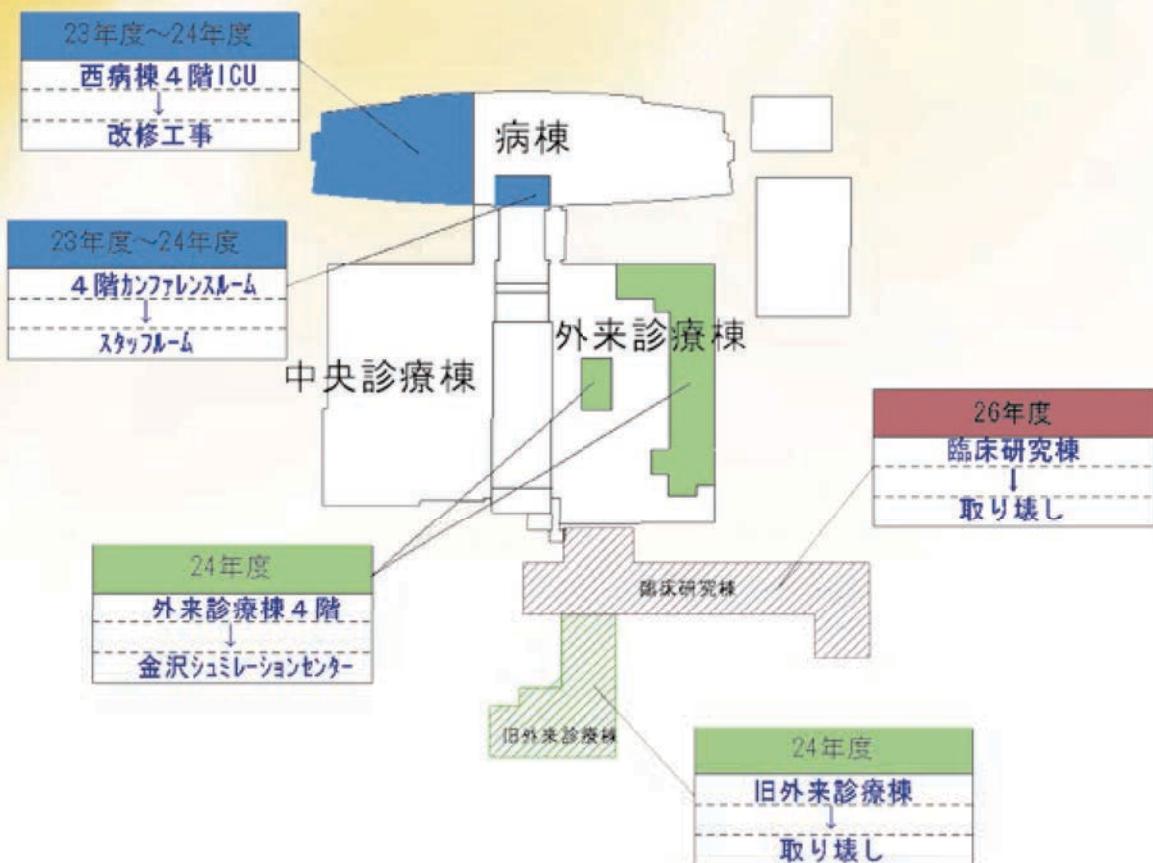
金沢大学附属病院 整備計画 1階



金沢大学附属病院 整備計画 2階



金沢大学附属病院 整備計画 3階



金沢大学附属病院 整備計画 4階

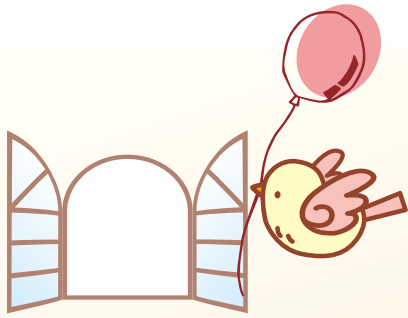
からくり時計をご寄付頂きました

8月9日、金沢市涌波の小坂医院代表 小坂牧子様（他3名）より、当院の施設的环境向上に、からくり時計をご寄付いただきました。

小坂様には病院長より「病院への寄付は大変ありがとうございます、大切に使用させていただきます。」と、感謝状が送られました。からくり時計は、ホスピタルプロムナードに飾られる予定です。



左から目録を受け取る
富田病院長、小藤看護部長、小川事務部長、小坂様



看護師による相談窓口

専門看護外来 福間明美

看護師による相談窓口は、創傷・ストーマ外来、糖尿病・肝炎療養相談、がん相談などがあります。ある日のこと、予約センターの窓口でどの診療科を受診したら良いのか分からず相談室にいられた方がいました。診療科が多くどこに診てもらえばよいのか分からない、すっきりしない症状があり癌ではないかと心配して来院したと言われました。また、紹介状が必要と言われたが受診している医師に紹介状を書いてもらう事でこれまでの医師との関係を悪くするのではないかと心配と話された方がいました。免疫療法は金大で受けられるのか、生命保険が使えるのか。昨日テレビで見た治療方法（検査）は金大で行っているのか。医師から病状の説明を受けたがリンパ節という言葉が分からない。等々病気に伴ういろいろな難しさをかかえていることが感じられます。相談は電話でも受け付けていますのでお気軽にお声掛け下さい。



(076-265-2040 地域連携室)

「ナースなぞかけ」手拭いを 作りました

看護部では毎年、実践に役立つ看護用具を考案した看護工夫作品展を開催しています。今年度は、特別企画に「ナースなぞかけ」を募集し、看護業務の様子を謎かけにした作品が56点集まりました。例えば「春とかけて秋ととく。そのころはどちらも新米の季節です」など楽しい作品で、7種類の「手拭い」にし、様々な用途に活用しています。



北國がん基金表彰

第24回北國がん基金より、研究活動の助成（50万円）を受けることができました。

テーマは、「エアマットレスと Quality of Life(QOL)に関する研究」です。

内容は、褥瘡予防におけるがん患者さんの療養中の安楽性を改善し、がん治療が円滑に受けられることを目的として褥瘡予防ケアにおける体圧分散寝具と QOL の影響を検討することです。

がん医療では治療や症状等により褥瘡危険要因は複数あり、褥瘡予防ケアは入院時より全患者さんに行われています。その一方で、看護師が褥瘡予防として適切な時期に体圧分散寝具を選択しても患者さんは療養環境に不快を感じ、除圧効果の低いマットレスに変更を希望されることがあります。そこで、患者さんの褥瘡予防ケア(体圧分散寝具等)への意向に添い、かつ褥瘡予防に耐えうる体圧分散寝具の要件を検討することは必要であると考えました。

研究を通して、相反する事象の双方を両立するためのより快適なケアの方向性を導き出すことができました。



専門看護外来 丸谷 晃子

認定看護師の紹介

認定看護管理者

東病棟 7階
鈴見 由紀

2011年6月20日、日本看護協会の看護管理者認定審査に合格し認定看護管理者となりました。認定看護管理者の役割は多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して質の高い組織的看護サービスを提供することです。多様化、スピード化する医療環境の中で看護師がチーム医療の一員として専門性を発揮でき、生き生きと情熱を持って働ける組織作りに貢献したいと思いません。



がん放射線療法 看護認定看護師

中央診療棟 1階
定塚 佳子

がん放射線療法看護認定看護師は、2009年度新たな認定分野として加わりました。2011年5月12日に審査を受け、6月20日に認定審査に合格し認定看護師になりました。放射線治療は、形態や機能が温存でき、低侵襲であることから、年々治療を受ける患者さんが増加しています。放射線治療を受けるがん治療を受ける患者さんの不安や思いに寄り添いながら看護を実践していきたいと思えます。よろしくお願いたします。



救命救急の研修について

看護部では、看護師全体の救命救急に関する技術の向上を図ることを目的に、平成21年度よりAHA(アメリカ心臓協会)講師の指導のもと一次救命蘇生法(BLS)のプロバイダー(救助者)とインストラクター(救助者を指導する者)の養成研修を行い、プロバイダー162名とインストラクター18名が誕生しました。平成22年度は心肺停止のみならず重症不整脈、急性冠症候群、脳卒中などの初期治療といった二次救命処置(ACLS)を修得するためのACLSプロバイダーとインストラクターの養成研修を同時に実施し、一次救命蘇生法(BLS)プロバイダー168名の他、ACLSプロバイダー45名とインストラクター8名が誕生しました。今年度は新たにファカルティ(研修の監督者、インストラクターを育成する者)が2名誕生し、救命救急に関する研修の院内体制が確立し、研修を企画・実施できるようになりました

1年目の看護師が、BLSプロバイダー資格取得後、患者さんの救命に関する状態時に、無我夢中であつたけれども落ち着いて対応ができたと報告がありました。このように患者さんの安全と安心に繋げていけるように多くの看護師が技術を磨いていきたいと思ひます。



自動洗髪機導入して

自動洗髪機により患者さんにリラックスを

東病棟5階

5月より当病棟に自動洗髪機が設置され、女性病棟として患者さんに美容院のような心身ともにリラックスした時間を提供できるようになりました。

自動洗髪機は、水流とミストの効果にて手洗い以上に頭皮を傷つけず、心地よさと洗浄力を持ち、頭皮の温熱刺激とマッサージにより血行を促進させ、頭皮に栄養を与え、また低刺激により抜け毛を予防することができます。患者さんの希望に合わせてシャンプーやフルコースなどモードや、水流の強弱、ミストによる頭皮の温熱などさまざまな選択ができます。また、洗髪フルコースにかかる所要時間は、5分程度と短く、創痛のある患者さんや臥床が辛い患者さんに対して短い時間で行うことができ、苦痛の緩和につながっています。看護師も業務短縮につながっています。実際、シャワーができない患者さんから「美容室みたいに爽快だった」や「水圧だけであるが人の手に似た感覚で心地よかった」、化学療法による脱毛をしている患者さんから「抜け毛が少なく、刺激が少なかった」とうれしい声が聞かれています。

今後も自動洗髪機を使用し、より患者さんの病気や治療に立ち向かう力となる看護につなげていきたいです。



平成23年度ふれあい看護体験

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日の「5月12日」に「看護の日」が制定されてから、21年目になります。この看護の日を含む1週間を看護週間とし、その間に全国各地で様々な行事が繰り広げられています。

当院でも、5月10日に「ふれあい看護体験」を実施しました。2校から4人の高校生が参加し体験しました。高校生は、白衣に袖をとおし、身なりを整え、病院長から「1日看護師」の辞令を受け、看護部長から励ましの言葉を受けて、高校生は緊張の中にも体験への期待が感じられるような表情に変化していきました。

2人ずつペアになり、2部署で看護体験をしました。体温や血圧などの測定、足浴や車椅子での移動など、直接患者さんとの触れ合いを体験しました。また、妊婦体験や生まれたばかりの乳児の沐浴見学や抱っこなどを通して「いのちの誕生や尊さ」について伝えることができました。高校生からは「患者さんから声をかけていただき、喜んでいただき、感激しました。看護師になりたいという思いが強くなりました」、また、「充実した1日となりました」という感想がよせられ、看護への関心が深められました。

看護の日に毎年、「ふれあいコンサート」を企画し、高校生も患者さんや家族の皆様とともに参加しました。医師・看護師などの職員による手作りコンサートで、患者さんからも、楽しい・優しい時間を過ごすことができましたとあたたかい感想をたくさんいただきました。



七夕の笹飾り

金沢大学附属病院では、七夕にあわせて、新外来診療棟1階の「ホスピタルプロムナード」に七夕かざりが飾られました。

毎年恒例となっており、今年は患者さんや職員からの願い事が書かれた短冊が約1400枚結びつけられました。

ご家族の健康についての願い事が多く、皆様の願い事が無事に天まで届きますよう、石浦神社へ奉納し供養していただきました。

東日本大震災に伴う義援金のお礼

金沢大学附属病院にて受け付けておりました義援金について、皆様からのあたたかいご支援を頂きましてありがとうございました。

義援金総額 金51,210円

お寄せいただきました義援金につきましては、北國新聞社を通じて、被災地へ寄附させていただきます。



Kindai Hospital Today
vol.14

編集・発行 金沢大学附属病院 病院広報紙編集委員会
(事務担当：総務課 調査・広報係)
TEL 076-265-2936 FAX 076-234-4320

皆さまからのおたより、ご意見をお待ちしております。